

事業又は施策名【担当課】

④公共物の管理と移行【土木課】

委員コメント

道路清掃といった道路管理事業の一部をなすもので、市民協働で対応できる部分を実施する事業であるが、そのシステムの検討を始めたばかりの事業であり、成果は出ていない。先行事例を調査しているが、その分析が行われてはならず、システムの構築には未だの感がある。市民協働のまちづくりのモデルケースの一つになるので、関連する機関(まちづくり協議会)とも密接に連携して進めて行くことが求められる。

街路樹の市民管理制度の構築を目的とするのであれば、1-2年かけて特定地区ですでに街路樹清掃などの実績のある自治会などと意見交換をし、協働事業の可能性を探ってみるということも重要かもしれません。平成29年度及び中・長期の目標について、もう少し時間をかけ実態に即した目標設定にした方がよいのではないのでしょうか。特定地区でパイロット事業として街路樹の市民管理が可能か否か、制度構築についての市民側との意見交換、対話などが必要なのではないのでしょうか。あるいはごみ清掃・環境などともからめ他部署との共同の可能性もあるかもしれません。

当施策においては、施策を実行する上での課題や問題点の整理と、それに対する解決方法の展開が必要だと思います。この事案で言えば、愛護会やアダプト制度での運用による市民又は団体との協働がボトルネックになるものと考えます。これらの課題対策の立案を目標に掲げ、その進捗状況を成果推移として管理いただきたいと思います。

・「公共物の管理と移行」となっているが、「公共物の管理の移行」を含め、表現(また考え方)がこれで適切か、確認をお願いしたい。疑問として、管理の移行か、管理の委託か、管理の一部に市民協働を取り入れていくのか、等々。

・管理を移行させることについて、全体として、何の管理を、どの様なタイミングで、どの様に移行させていくのか。そして、どの様なスケジュールで行っていくのかが、全く見えていない。やはり、この様な基本的方針については、きちんと明示する必要があるのではないかと思う。特に公物の管理の移行(委託)という表題から考えるとなおさら必要と思う。

・市民協働で行う方向であるなら、この施策の意義、目的をしっかりと地元で説明し、地元の現状(できる内容、範囲、方法等)を把握し、手法(愛護会方式、アダプト方式)を含めてきちんと話し合いを行っていくなど、市と市民との協働の意思を疎通させる観点が必要なので、これを明記していく必要があると思う。

・他都市の調査結果がまとめられており、様々なことが行われていることは承知できたが、市として、この分析がなされ、本市の状況に当てはめてどうなのかという検証が不十分に見受けられた。是非、早急に分析するとともに、本市に何が適切かの検討をお願いします。

・現在でも、無償で、範囲は自分の範囲で狭い方も見えるにしても、道路や河川の、除草、清掃、はじめ地道な活動をされている方(団体)も見受けられる。これらの内容を市としてしっかり把握し、そのことに感謝する施策を行うこと等により、これらが起爆剤となって、本施策も推進されていくことにつながることも思料されるので、少なくとも、現在活動されている実態の把握に努めることもお願いしたいと思う。

本事業の狙いや目的が質問を繰り返しても理解できなかった。

街路樹管理費(h27年度1億、h28年度98百万)の財政負担軽減なのか？市民の美化高揚運動なのか？落葉被害の苦情対策なのか？全国的なアダプト制度(有償の愛護会や無償ボランティアなど)に相乗りなのか？未だ計画は白紙と認識した。

目的次第で異なる施策、まずは住民サービスに直結するニーズを探るところから再スタートしてほしい。

住民のために手弁当で貢献する無償ボラ、消耗戦自前モチベーションでは維持できず退場を余儀なくされる叫びをまたまた聞いた。

行政は住民の意識高揚を目的に、安易な無償ボラ利用は厳に慎まなければならないと思う。

進め方は住民との情報交流が必要、一方的な負担はいずれ破たんする。